12月定例会

電算化で窓口事務を迅速に
戸籍総合システムの導入
～住民サービスの向上へ～

平成22年度12月定例議会が12月15日から17日までの3日間にわたり開催され、藤里町地区会館条例の一部改正や一般会計補正予算など上程された11案件について原案どおり可決されました。

行政報告

◇平成22年度産米の集荷状況

平成22年度産米の集荷状況については、JAあきた白神藤里営農センターの12月2日現在における集荷実績によりますと、30kg単位での予約数量、8万3，265個に対し、集荷率が84・9％、数量では、7万713個と、春先からの異常気象等により茎数が確保されず、作柄は平年を大きく下回る結果となりました。また、品質に関しても「あきたこまち」は平年並みでしたが、「めんこいな」等の1等米比率が、80・6％と落ち込んだ事により、平年の94％から95％に比較し、全体では90・1％と落ち込んだ結果となりました。

平成23年産米の需要量に関する情報について、今月2日、国から都道府県別の生産目標数量が公表されています。国の23年産米の目標数量は、今年度より18万t少ない795万t、面積換算では、150万haの減となっています。本年度は、生産調整の達成状況等を加味した配分でしたが、23年度は加味条件が全て撤廃となることから、秋田県への配分は全国最大の削減幅となりマイナス4・6％、数量で2万1，450t、面積では3，750haと予想を超える削減配分となっています。各市町村の生産目標数量については、今月中には県より情報提供される予定ですので、それが示され次第、町の水田協議会等において配分方針等を協議し、農家の営農計画に支障がないよう対応していきたいと考えています。

本年の畑作についてですが、ネギは、作付面積が昨年の560aから295aと約半減しているものの、売上は2万1，395千円と前年同期を1，090千円程上回っています。また、今年から採花がはじまっていたリンドウについては、栽培面積54a、採花本数は12万2，240本でした。販売額は、6，080千円程となっており、10a当たりでは、1，130千円弱と目標額の1，200千円に近い売り上げとなっています。また、夏秋トマトや廃ブロックまいたけの販売額も計画を上回る結果となっています。今後、出荷が始まるヤマウドについては、栽培面積が、1，160aと昨年とほぼ同じ面積となっていますが、昨年を上回る収入を期待しているところです。

◇農家の経営支援策について

異常気象被害による農業経営安定対策として、本年度は航空防除費への負担に対する支援のほか、農家の経営資金等の借り入れに対する利子補給支援策を講じています。本議会には、これに関連する予算を債務負担行為として提案していますが、今後の施策については、集落営農の推進や振興作目に対する支援、急速に進む未利用地対策など、農家の皆さんの意見等も拝聴しながら、来年3月を目途に振興策を策定したいと考えています。

◇「炭焼き小屋」の整備について

清水岱地区の県営里山林保全整備事業の関連施設であり、町が単独事業として設置した交流体験型の炭焼き窯の整備についてですが、県の事業については、平成21年度では、歩道の開設とウッドチップによる舗装、作業所の整備、22年度では東屋を整備しており、12月中の工事期限でしたが、すべて終了しています。